



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第24号

目次

- 個人情報保護法に関する講演会
- タカラバイオ株式会社と寄附講座設置に合意
- 三重大学の教育の刷新を担う高等教育創造開発センターが設置される
- 「知的財産教育シンポジウム・発明コンクール」開催される
- 新たな国際インターンシップを目指しての訪中
- 役員・部局長等のワークショップ開催
- タスマニア大学太鼓クラブ
- 梨花女子大学校とのドイツ語による学生交流
- 事務職員の業務改善活動
- 東南海・南海地震シンポジウム
- 新医学部附属病院長が選出される

個人情報保護法に関する講演会



4月1日から施行される個人情報保護法に対応する三重大学としての管理体制や措置について、昨年10月以降、ワーキンググループにおいて鋭意検討を行い、「三重大学個人情報保護規程」及び「同運用基準」をとりまとめました。また、教職員への法律の趣旨徹底と遵守のための啓発研修として、全学講演会が3月10日、医学部臨床第三講義室にて開催され150名以上の出席がありました。講演は人文学部豊島明子助教授による法律の趣旨説明と総合情報処理センターの太田義勝センター長による「情報セキュリティについて」という演題で行われ、活発な質疑応答が終了間際まで続きました。なお、普及啓発用に小冊子を教員全員と事務職向けに配布し、さらに必要に応じて説明会の開催を予定しております。法に違反すると罰則も科せられますので、4月からの確実な法の遵守をお願いします。

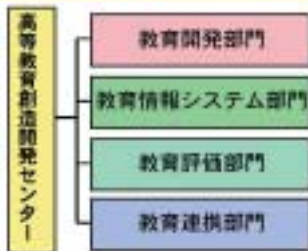
タカラバイオ株式会社と寄附講座設置に合意

3月14日、本学とタカラバイオ株式会社(代表取締役社長：加藤郁之進氏・滋賀県瀬田市)との間で寄附講座設置についての調印式が三翠会館で行われました。これは、珠玖洋教授との間の共同研究に向けて、同社からの寄附金により、本学医学部に遺伝子・免疫細胞治療学講座を平成17年度から5年間設置するものです。調印後の記者会見では、肺がんや食道がんなどを対象とした遺伝子治療の臨床開発に共同で取り組むことを発表しました。

写真：左 タカラバイオ(株)取締役社長 加藤郁之進氏、右 豊田長康学長



三重大学の教育の刷新を担う高等教育創造開発センターが設置される



平成17年4月に高等教育創造開発センターが設置されることになりました。このセンターは、①教育の改善を進める「教育開発部門」、②学習支援や授業支援のための情報システムを構築する「教育情報システム部門」、③本学の教育を客観的に評価するための「教育評価部門」、④社会連携教育や高大連携の事業を進める「教育連携部門」の4部門から構成されています。「感じる力」「考える力」「生きる力」とその基盤となるコミュニケーション力の育成をめざす本学の教育目標を実現していくための中核を担うこととなります。

「知的財産教育シンポジウム・発明コンクール」開催される

現代GP「全学的な知的財産創出プログラムの展開」の初年度の活動の締めくくりとして、標記シンポジウムが2月23日にメディアホールにて開催されました。学長の挨拶に続いて、招聘した韓国の大学(梨花女子大学校・世宗大学校・世明大学校)の先生方による韓国の知的財産の取り扱いの動向に関する3件の講演がありました。その後本プログラム代表(松岡守教授・教育学部)による本年度の取り組みの状況及び来年度以降の計画についての報告の後、本プログラムの一環として支援した学生ベンチャーの活動報告4件、並びに学生の優秀な発明に対する表彰式が行われました。



松岡守教授



学生ベンチャー活動の報告

新たな国際インターンシップを目指しての訪中



3月6～10日にかけて、国際交流室長（亀岡孝治副学長）が三重県日中友好協会の中井均事務局長、松野静代事務局次長とともに中華全国青年連合会（北京）と河南省鄭州市ケイ陽市を訪問しました。同協会は中華全国青年連合会をカウンターパートに、日中緑化交流基金の助成金を得て、河南省鄭州市ケイ陽市で大規模な緑化協力をすすめています。今回の訪問では、この緑化協力を三重大学の国際インターンシップ事業として展開していくために、河南省鄭州市ケイ陽市の緑化現場の視察を行う一方、鄭州大学を訪問しました。その結果、今後、同大学と緑化協力に関連する具体的な大学間交流計画を立案していくことになりました。

役員・部局長等のワークショップ開催

3月7～8日、役員と5学部長、副病院長によるワークショップを津市内で開催しました。このワークショップは、目標チャレンジ活動の一環である管理職の目標管理活動として、三重大学の活性化のために集中討議を行おうという趣旨で合宿により実施されました。学長による「三重大学の戦略とPDCA」というプレゼンテーションに続いて各部局の年度報告・今後の戦略計画などの説明があり、更に知切監事から「三重大学の経営管理」の説明がなされ、深夜まで熱い議論が交わされました。



タスマニア大学太鼓クラブ



三重オーストラリア・ニュージーランド協会の招きで、2月4日にタスマニア大学太鼓クラブ(UTASTS) による和太鼓演奏会が三翠ホールで行われました。地元の太鼓グループ「飯高町清流太鼓」から和太鼓を借り受け、二曲を披露しました。本学の教職員や学生、地域の方々合わせて約200人が太鼓演奏を楽しみました。演奏会後の交流会には約80人の参加者があり、学生を中心に教職員、協会の関係者がにぎやかに集う場となりました。太鼓クラブの代表者は、本学に以前留学した経験もあり、太鼓クラブの立ち上げからタスマニアでの活動の様子まで、太鼓への熱い思いを語ってくれました。交流会は終始和やかな雰囲気の中、予定を大幅に延長して大いに盛り上がり、あちこちで交流の輪ができました。今後とも協定校としてタスマニア大学とはつながりを深めていきたいと願っています。

梨花女子大学校とのドイツ語による学生交流

三重大学国際交流基金による助成事業（事業代表者：鈴木由美・人文学部2年生、指導教員：大河内朋子教授・人文学部）として、梨花女子大学校（韓国）との間で、2月15～19日までの5日間、ドイツ語による学生交流が行われました。梨花女子大学校からは学生5名と教員1名が来日し、県内各地でホームステイをしました。滞在期間中、本学学生10名と一緒にさまざまな形で楽しみながらドイツ語を学び、伊勢神宮への小旅行を通して親交を深めました。このことにより、ドイツ語がアジアの学生との交流におけるコミュニケーション言語となることが確認されました。



事務職員の業務改善活動

2月23日、午前と午後の2回にわたり目標チャレンジ活動の一環として、事務職員を対象に向けた業務改善活動講演会を開催しました。この講演会には経営コンサルタントの藤原淑郎氏（日化技連顧問）を1月の課長級研修会に引き続き講師に招き、事務部門の各現場レベルで改善活動の中核を担う若手・中堅職員が研修を受けました。事務職におけるコスト削減活動もこの活動の一部として位置付けているため、事務の効率化・合理化への現場レベルの取り組みが活発になるよう期待しています。

東南海・南海地震シンポジウム



3月19日、本学附属図書館と災害対策プロジェクト室(DMPO)は、東海地区国立大学図書館協会及び鳥羽商船高等専門学校とともに、三重県・鳥羽市の共催で、市民のための標記シンポジウムを鳥羽市民文化会館大ホールにて開催しました。地震関係資料や模型の展示、無料住宅相談、防災啓発車による地震体験の場が設置され、約200人が集まりました。井村均・鳥羽市長、伊藤義人・名古屋大学附属図書館長の挨拶、森野捷輔副学長の趣旨説明の後、東地隆司県防災危機管理局総括室長、川口淳助教授・DMPO、丸山一男教授・医学

部による講演があり、続いて畑中重光教授・DMPO室長の司会でパネルディスカッションが行われました。会場からは多くの質問が寄せられ、聴衆は熱心に聞き入っていました。

新医学部附属病院長が選出される

3月9日開催の医学部教授会に於いて、内田淳正教授が次期附属病院長候補者として選出されました。任期は、4月1日から4年間です。

投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治 (vpre-info@mie-u.ac.jp) または 井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (<http://www.mie-u.ac.jp>) ご覧いただけます。》 編集責任者 / 理事・副学長 渡邊悌爾